

2022年度ファカルティ・ディベロップメント活動の状況

本学のファカルティ・ディベロップメント（以下、「FD」と表記する）は、大学全体及び各学部・研究科による様々な活動が展開されている。大学全体では、主に「高等教育研究・開発センター」が中心となって企画・立案・実施し、「FD推進委員会」のもとで全学的にFD活動を支援しており、各学部・研究科では、「FD委員会」等を設置し、主体的にFD活動に取り組んでいる。

なお、2022年度は、コロナ禍のため例年通りの授業運営を行うことができなかったが、その中にあっても実施の時期、方法の変更などの工夫によりFD活動を行った。

「高等教育研究・開発センター」では、FDの取組みを集約し、紙媒体の「年報」の発行により、報告を行った。

1. 大学全体でのFD活動

(1) 教育改善に関する取組み

<高等教育研究・開発センター>

全学的な教育支援体制に関する諸施策の企画及び開発や、組織的かつ継続的に教育内容及び教育技法の改善を支援し、本学の教育の充実と発展に寄与することを目的に、「高等教育研究・開発センター」を設置している。同センターは、この目的を達成するため、FDに関する大学全体の取組みを企画・運営するとともに、各学部・研究科に対するFD活動の支援を行っている。

<FD推進委員会>

2020年度より、高等教育研究・開発センター運営委員会を改組し、大学FD推進委員会を新たに設置し、さらなるFD活動の推進に向けて、全学的組織的に支援する体制を整備した。

<「学生による授業改善アンケート」「教育・研究指導改善アンケート」の実施>

学部においては「学生による授業改善アンケート」を、大学院においては「教育・研究指導改善アンケート」を実施している。

「学生による授業改善アンケート」は、Webでの回答方法を採用している。春学期と秋学期に全学部で実施し、授業改善を促進するためにその結果を教員へフィードバックしているほか、大学ホームページ等にて公開している。

「教育・研究指導改善アンケート」は、毎年度末に実施し、その結果を各研究科において分析し、改善につなげている。

<公開授業>

教員同士が互いの授業を参考にする機会として、年2回の「公開授業」期間を設けている。

集中的に参観しやすいように、公開授業期間は2週間、公開対象科目は対面授業全科目を対象としていたが、オンライン授業も公開授業の対象として実施した。

＜教職員向けセミナーや研修会等の開催＞

新任専任教職員を主な対象とした、教育実践力向上セミナー（兼新任教職員研修会）を開催している。2022年度は以下の内容で計3回実施し、グループワークや模擬授業等、実践的プログラムを取り入れたセミナーを1年間で継続的に受講することにより、教育実践力の向上を目指している。

- ① 「半期の授業を振り返る」というテーマで、参加者同士での課題の共有
- ② 第8回ヨコハマFDフォーラム（後述）への参加
- ③ 「「自らの教育活動を振り返り、課題を見つける」～TPチャートとティーチングステートメントの作成～」というテーマで、外部講師による研修会を、いずれもオンラインにて開催した。

＜横浜市内4大学FD連携＞

FD活動についての連携協定を締結している神奈川大学、横浜国立大学、横浜市立大学との共催による「第8回ヨコハマFDフォーラム」を「新型コロナ禍の経験から、あらためて学生支援について考える～コロナ禍の学生生活と学修への影響～」をテーマにオンラインで開催した。

＜シラバス改革＞

毎年各学部・研究科等で、組織的、定期的にシラバスを検証していく仕組みを整備しており、2022年度も各学部FD委員会等を中心にシラバスチェックを行っている。

＜教育・研究等活動に関する自己点検・評価＞

専任教員の「教育・研究等活動に関する自己点検・評価」を毎年実施し、自己点検・評価委員会を中心に教育課程や教育内容・方法の改善を図っている。

（2）研究活動の活性化等に関する取組み

研究の全学的推進及び総合的向上に加え、研究を通じて本学の社会的使命を達成することを目的に、総合研究推進機構を設置している。同機構では、公的研究費の適切な管理体制の整備やコンプライアンス及び研究者倫理の保持に向けて、必要な啓発、教育、研修の計画を策定し、継続的に実施している。実施結果については、「研究推進委員会」を経て「研究倫理委員会」にて報告することで、適性や有効性の確認を行っている。

研究活動におけるリスクマネジメントの強化、研究倫理教育及びコンプライアンス教育等の実施や公的研究費の制度・執行に関する学内説明会の開催等に取り組み、全学的な研究活動の活性化等を図っている。「公的研究費の適正使用及び科研費執行に関する説明会」については受講率が低いため、動画配信による未受講者への受講促進を図っている。

教員の教育研究活動における資質向上を図るため、専任教員を対象とした教員業績システムを整備し、Webサイトで公開しており、その活用を全学的に推進している。

2. 学部・研究科におけるFD活動

各学部・研究科においては、FD委員会等が中心となり、様々なFD活動に取り組んでいる。

また、研修教授会（教員研修会、研修会など呼称は学部により異なる）等を実施し、カリキュラムや学生支援のあり方等の振り返りや検討を行っている。非常勤講師に対しても、非常勤講師懇談会（学部教員懇談会など呼称は学部により異なる）等を開催し、カリキュラムや授業環境などについて共通理解を深めている。